

公益社団法人東京都獣医師会 会長

上野 弘道 先生

HIROMICHI UENO

Buddyがつくる、未来の日本

バディと生きるを、 社会ごとに。

バディとは、人生をともにする動物たちのこと。
動物との共生や生物多様性が求められるこの時代に、
人と動物の共生から生まれる価値を、社会全体で育てていきます。



■ Buddyは、人だけでなく社会も幸せにする存在

犬や猫などの伴侶動物（Buddy）と暮らす人に、「なぜ一緒に暮らしているのですか」と尋ねれば、多くの人はこう答えるでしょう。

「家族だから。」「癒やされるから。」「人生に欠かせない存在だから。」

どれも間違いではありません。しかし、私たちはまだ、Buddyが私たち一人ひとりだけでなく、日本社会にもたらしている価値を十分に理解できていないのかもしれない。

Buddyとの暮らしは、人だけが恩恵を受ける一方通行の関係ではありません。大切にされるBuddyもまた幸せを感じ、その幸せが人へ、そして社会へと広がっていきます。人とBuddyが見つめ合い、触れ合うことで、お互いに「幸せホルモン」と呼ばれるオキシトシンが分泌され、深い絆が育まれることが科学的にも示されています。

そして、その絆がもたらす恩恵は、飼育者だけにとどまりません。Buddyと暮らす人が増えることは、動物を飼っていない人にも恩恵をもたらす、日本社会全体をより豊かで温かいものへと変えていく可能性を秘めています。

近年、そのことを裏付ける科学的エビデンスが世界中から数多く報告されています。

■ Buddyは「社会全体の健康資源」

近年、そのことを裏付ける科学的エビデンスが世界中から数多く報告されています。

その効果は、心が満たされるという感覚的な話だけではありません。

日本の研究では、犬と暮らす高齢者は認知症の発症リスクが約45%低下し、フレイルの発症も少なく、長期的な介護費は非飼育者のおよそ半分という結果が報告されています。

これは、一人の健康だけの話ではありません。

介護費や医療費が抑えられれば、その恩恵は社会保障制度を通じて国民全体に及びます。海外の試算では、日本でもペットとの暮らしによって年間数千億円規模の医療費削減効果が期待できるとされています。つまりBuddyは、「誰かのペット」であると同時に、「社会全体の健康資源」でもあるのです。

■ 子どもの健やかな成長を支えるBuddy

子どもたちへの影響も見逃せません。

約3,200人を対象とした日本の縦断研究では、10歳時に犬と暮らしていた子どもは、12歳時にも心のWell-beingが比較的高く維持されることが確認されました。また、攻撃性の低下、向社会性の向上、仲間との良好な関係、抑うつや軽減なども報告されています。さらに、幼少期から犬や猫と暮らすことは、アレルギーの発症リスクを低下させる可能性も示されています。

未来を担う子どもたちが、心身ともに健やかに成長する。その価値は計り知れません。

■ Buddyが地域のつながりを育む

そしてBuddyは、人と人もつないでいます。

犬の散歩は、地域で自然なあいさつを生み、知らなかった人同士が顔見知りになり、やがて友人になっていく。その積み重ねが地域への愛着や信頼関係、いわゆるソーシャルキャピタルを育てていきます。

さらに興味深いことに、犬の飼育率が高い地域ほど犯罪が少ない可能性を示すデータも蓄積されつつあります。現在、その関連性については研究者による学術的な検証が進められています。もちろん、犬を飼えば必ず犯罪が減ると単純に言えるものではありません。しかし、Buddyが人を外へ連れ出し、人と人を結び、地域に自然な見守りの目を増やしている可能性は十分に考えられます。

つまりBuddyは、人の健康を支えるだけでなく、「安心して暮らせる地域」そのものを育てているのです。

■ 社会課題を解決する新たな社会資本

これから日本は、少子高齢化、孤独・孤立、医療・介護費の増大、地域コミュニティの希薄化など、多くの社会課題に向き合わなければなりません。

これらは行政だけでも、医療だけでも解決できる問題ではありません。

だからこそ私たちは、Buddyという存在を、「かわいいペット」という枠を超えた社会資本として捉え直す時代に来ています。

動物と暮らすことは、個人の趣味でも贅沢でもありません。

その選択が、健康寿命を延ばし、孤立を減らし、地域を活性化し、医療や介護の負担を軽くし、社会保障制度の持続可能性を支え、未来の子どもたちの心を育てることにつながるのであれば、それは社会全体への投資でもあります。

■ Buddyがつくる未来の日本

Buddyが幸せなら、人も幸せになる。

人が幸せなら、家族が笑顔になる。

家族が笑顔になれば、地域に会話が生まれる。

地域がつながれば、人は支え合い、犯罪は減り、医療や介護への負担も少なくなる。

そして、その恩恵は、Buddyと暮らす人だけではなく、暮らしていない人にも届いていく。

Thanks Buddy Projectが目指しているのは、動物を好きな人だけのプロジェクトではありません。

Buddyと暮らす人も、暮らしていない人も、その恩恵を分かち合える社会をつくることです。

一頭の犬が、一匹の猫が、一人の人生を変える。

その人生の変化が、家族を変え、地域を変え、社会を変えていく。

Buddyへの「ありがとう」は、未来の日本への「ありがとう」につながっている。

私たちは今、愛らしいBuddyとともに、日本の未来をもっと明るくする、新しい一歩を踏み出そうとしています。

参考

Thanks Buddy Project | バディと生きるを、社会ごとに。

<https://thanksbuddyproject.jp/>

